

「ポリファーマシーに対する取組状況に係る実態調査」

ご回答方法

- ・貴院の施設長から委任された方（主に薬剤部長など）がご回答頂きますようお願い致します。
- ・（ ）内には具体的な数値、用語等をご記入ください。
- ・（ ）内に数値を記入する設問で、該当無しは「0（ゼロ）」を、ご記入ください。わからない場合は「9999999999」（9を10個）をご記入ください。・特に断りのない限り、令和5年7月31日現在の状況についてお答えください。

I. 貴院の基本属性についてお尋ねします

問1 貴院の名称および所在地（自治体名）をご記入ください。（自由記述）

- ・貴院名（ ）
- ・ご回答者様が所属する部署名をご記入ください。（ ）
- ・所在地（ ）都道府県（ ）市区町村

問2 貴院における許可病床数※をご記入ください。 ※医療法に基づく病床数

1) 一般病床	2) 療養病床	3) 精神科病床	4) 結核病床	5) 感染症病床
床	床	床	床	床

問3 貴院がお考えになる貴院の主たる医療機能をお答えください。（単一回答）

1. 高度急性期 2. 急性期 3. 回復期 4. 慢性期

問4 標榜診療科 （複数回答）	1. 内科※ ¹	2. 外科※ ²	3. 精神科	4. 小児科
	5. 皮膚科	6. 泌尿器科	7. 産婦人科・産科・婦人科	8. 眼科
	9. 耳鼻咽喉科	10. 放射線科	11. 脳神経外科	12. 整形外科
	13. 麻酔科	14. 救急科	15. 歯科・歯科口腔外科※ ³	16. リハビリテーション科
	17. その他（ ）			

※1：内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、腎臓内科、糖尿病内科、血液内科、感染症内科、アレルギー内科、リウマチ内科、心療内科、神経内科等は、「内科」としてご回答ください。

※2：外科、呼吸器外科、心臓血管外科、乳腺外科、気管食道外科、消化器外科、肛門外科、小児外科、形成外科、美容外科等は、「外科」としてご回答ください。

※3：矯正歯科、小児歯科は、「歯科」としてご回答ください。

問5 DPC 対応状況
（単一回答）

1. DPC 対象病院 2. DPC 準備病院 3. DPC 対象病院・準備病院以外

問6 職員数をご記入ください。

	1) 医師	2) 歯科医師	3) 薬剤師	4) 看護職員※ ²	5) その他の職員※ ³
常勤職員実人数	人	人	人	人	人
非常勤職員実人数	人	人	人	人	人
非常勤職員の常勤換算人数※ ¹	人	人	人	人	人

※1：非常勤職員の常勤換算については、以下の方法で算出してください。常勤換算後の職員数は、小数点以下第一位までお答えください。

1週間に数回勤務の場合：（非常勤職員の1週間の勤務時間）÷（貴施設が定めている常勤職員の1週間の勤務時間）

1か月に数回勤務の場合：（非常勤職員の1か月の勤務時間）÷（貴施設が定めている常勤職員の1週間の勤務時間×4）

※2：保健師、助産師、看護師、准看護師を指します。

※3：レジデント数は、5) その他の職員に計上ください。

問7 薬剤管理指導料の施設基準の届け出を提出していますか。
1. はい
2. いいえ

問8 令和4年度（令和4年4月～令和5年3月）に算定した加算の件数をご記入ください。					
1. 薬剤総合評価調整加算	件	2. 薬剤調整加算	件	3. 病棟薬剤業務実施加算	件
4. 薬剤総合評価調整管理料	件	5. 診療情報連携共有料	件		

Ⅱ. 貴院における「指針」・「業務手順書」の活用状況についてお尋ねします

『指針』、『業務手順書』とは
・本調査では「高齢者の医薬品適正使用の指針（総論編）」及び「高齢者の医薬品適正使用の指針（各論編（療養環境別））」を「指針」、「病院における高齢者のポリファーマシー対策の始め方と進め方」を「業務手順書」と表します。詳しくは厚生労働省のウェブサイト（URL を以下に記載）をご参照ください。 「高齢者の医薬品適正使用の指針（総論編）について」の通知発出について https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000208852.html 「高齢者の医薬品適正使用の指針（各論編（療養環境別））について」の通知発出について https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_05217.html 「病院における高齢者のポリファーマシー対策の始め方と進め方」の通知発出について https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_17788.html

ポリファーマシーの理解、指針・業務手順書への認知状況・活用状況

問9 ご回答者様は、ポリファーマシーをどの程度ご存じでしたか。（単一回答） ※「定義」とは、厚生労働省が「指針」の中で「多剤服用の中でも害をなすものを特にポリファーマシーと呼ぶ」として位置づけている内容を指します。
1. 知っていた（定義を正確に理解していた） 2. 知っていた（多剤服用であると理解していた） 3. 知っていた（言葉を聞いたことがあった） 4. 知らなかった
問10 ご回答者様は、「指針」をどの程度ご存じでしたか。（単一回答）
1. 知っており、活用した 2. 知っていたが、活用したことはない 3. 知らなかった
問11 ご回答者様は、「業務手順書」をどの程度ご存じでしたか。（単一回答）
1. 知っており、活用した 2. 知っていたが、活用したことはない 3. 知らなかった
<問10で「1. 知っており、活用した」「2. 知っていたが、活用したことはない」と回答した場合>
問12 現状の「指針」について 1 活用している内容、2.見直した方がよい内容 について、お答えください。（自由記載）
1. 活用している内容： 2. 見直した方がよい内容：
<問11で「1. 知っており、活用した」「2. 知っていたが、活用したことはない」と回答した場合>
問13 現状の「業務手順書」について 1 活用している内容、2.見直した方がよい内容 について、お答えください。（自由記載）
1. 活用している内容： 2. 見直した方がよい内容：

Ⅲ. 貴院におけるポリファーマシー対策の状況についてお尋ねします

ポリファーマシー対策への意欲

問14 貴院におけるポリファーマシー対策の現状として、あてはまるものをお答えください。
①-1 現状の取り組み（単一回答）
1. 組織的にポリファーマシー対策を行っている 2. （組織的ではなく）個々の医師の判断でポリファーマシー対策を行っている 3. ポリファーマシー対策を行いたいが行っていない 4. ポリファーマシー対策を行いたくないため行っていない
<①-1 で1、2 を回答した方へ伺います。>
①-2 現状の取り組み 貴院では何を目的として、ポリファーマシー対策が進められていると思いますか。（複数回答）
1. 医薬品適正使用を推進するため 2. 診療報酬の算定のため 3. 地域単位でのポリファーマシー推進のための取り組みのため 4. 院内における会議で問題視されているため 5. その他（ ）
②今後の方針（組織として決定された事項がない場合には、ご回答者様のお考えをお答えください。）（単一回答）
1. 組織的にポリファーマシー対策を行う 2. （組織的ではなく）個々の医師の判断でポリファーマシー対策を行う 3. ポリファーマシー対策を行いたいが行わない 4. ポリファーマシー対策を行いたくないため行わない 5. その他（ ） 6. 決まっていない

ポリファーマシー対策を行う際の課題

問15 貴院でポリファーマシー対策を始める・進める際の問題をお答えください（複数回答）。またその問題のうち貴院がポリファーマシー対策を始められない・進められない主たる要因になっているものがあればお答えください。（複数回答）		
	①問題としての該当有無 1. 該当する 2. 該当しない	（①で「1.」と回答した場合） ②ポリファーマシー対策を行わない主たる要因になっているか 1. 該当する 2. 該当しない
1. 人手不足で、対象患者の抽出や、検討する時間を作れない		
2. 多職種連携が十分でない		
3. お薬手帳がうまく活用されていない		
4. ポリファーマシーであるかを判断することが難しい		
5. 医師が自科以外の処方薬を調整することが難しい		
6. 病態全体をとらえることが難しい		
7. 見直し後の処方内容をかかりつけ医へフィードバックする体制が構築されていない		
8. 患者・家族の理解が得られない		
9. その他（ ）		
10. 上記に該当するものはない		

ポリファーマシー対策を行う人員が不足している場合の対応

問16 貴院では、ポリファーマシー対策を行う人員が不足しているとお考えですか。（単一回答）

1. 不足している
2. 不足していない

〈問16で「1.不足している」と回答した場合〉

問17 不足しているとお考えの職種をお答えください。（複数回答）

1. 医師
2. 歯科医師
3. 薬剤師
4. 看護職員
5. その他の職員（ ）

〈問16で「1.不足している」と回答した場合〉

問18 人員不足により生じている問題がありますか。その対応のために工夫している事項（具体的な工夫の内容）があればお答えください。（複数回答）

	①問題としての該当有 無 1. 該当する 2. 該当しない	②工夫している事項と しての該当有無 括弧内は具体的な工夫 の内容 1. 該当する 2. 該当しない
1. ポリファーマシー対策全体の管理責任者がいない		（ ）
2. ポリファーマシー対策全体の管理担当者がいない		（ ）
3. ポリファーマシー対策全体を進めるための知識・ノウハウが不足している		（ ）
4. 個々のポリファーマシー対策を行う際の知識・ノウハウが不足している		（ ）
5. ポリファーマシー対策以外でも人員不足の弊害が生じているため、ポリファーマシー対策に手が回らない		（ ）
6. その他（ ）		（ ）
7. 上記に該当するものはない		

ポリファーマシー対策を効率的に行うための工夫

問19 ポリファーマシー対策における業務時間確保のため、薬剤師のタスクシフト/タスクシェアに取り組んでいますか。（単一回答）

1. 取り組んでいる
2. 取り組んでいない

問20 ポリファーマシー対策を効率的に行うため、どのような工夫をしていますか。（自由記載）

--

多職種連携が十分に行われているか

問21 貴院では、多職種で構成されるポリファーマシー対策のためのチームを設置していますか。（単一回答）

1. はい
2. いいえ

問22 処方見直しに関する情報を共有する目的で多職種連携を行っていますか。（単一回答）

1. はい
2. いいえ

〈問 2 2 で「1.はい」と回答した場合〉

問 2 3 処方見直しに関する情報を共有する目的で多職種連携を行っている場合、どのような多職種連携・協働を実施していますか。（複数回答）

1. ポリファーマシー対策の担当者が、他の多職種によるチームカンファレンス（例：栄養サポートチーム（NST））に参加し連携を図る。
2. 電子カルテに処方の見直しについて記載し、多職種で情報共有して連携を図る。
3. 院内の既存の医療チーム活動の中にポリファーマシー対策の活動を含める。
4. ポリファーマシー対策の相談窓口を見える化する。
5. その他（ ）
6. 特別なものはなし

問 2 4 院内の診療科間で処方意図を共有する仕組みや機会がありますか。（単一回答）

1. 処方意図を共有する仕組みや機会がある （以下の欄に具体的にご記入ください。）
2. 処方意図を共有する仕組みや機会はない

お薬手帳の活用状況

問 2 5 貴院では、ポリファーマシー対策を実施する上で、お薬手帳（紙媒体・電子媒体）がうまく活用されていると思いますか。（単一回答）

1. はい
2. いいえ

〈問 2 5 で「2.いいえ」と回答した場合〉

問 2 6 お薬手帳（紙媒体・電子媒体）がうまく活用されていないと思う理由は何ですか。（複数回答）

1. お薬手帳等が 1 冊にまとめられていないため
2. 患者がお薬手帳を忘れるため
3. 患者がお薬手帳を紛失するため
4. お薬手帳に服用薬が全て記載されていないため（一元管理ができていないため）
5. 患者がお薬手帳の活用に賛同していないため
6. その他（ ）

普及啓発（患者・家族への働きかけ）

問 2 7 貴院における患者や家族へのポリファーマシーを解消するための働きかけの状況等についてお伺い致します。（単一回答）

1) 貴院では、過去 1 年間に於いて、患者や家族に対しポリファーマシーを解消するために処方の見直しを勧めた際、患者や家族の同意が得られず拒否されたケースはありますか。

1. はい
2. いいえ

2) 1) で「はい」と回答された方に伺います。処方の見直しを拒否する理由を患者や家族に確認していますか。（単一回答）

1. はい
2. いいえ

3) 2) で「はい」と回答された方に伺います。患者や家族が処方見直しを拒否する理由をお答えください。（自由記述）

4) 約 3 年前と比較して、処方見直しに対する患者や家族の抵抗感はどうに変化していますか。（単一回答）
※ご回答者様が把握されている範囲内でお答えください。

1. 減っている
2. 変わらない
3. 増えている

5) 約 3 年前と比較して、全患者数に占める介入患者数の割合はどのように変化していますか。（単一回答）
※ご回答者様が把握されている範囲内でお答えください。

1. 減っている
2. 変わらない
3. 増えている

6) 約 3 年前と比較して、全患者数に占める医師への処方提案数の割合はどのように変化していますか。（単一回答）
※ご回答者様が把握されている範囲内でお答えください。

1. 減っている
2. 変わらない
3. 増えている

7) 患者や家族に処方の見直しを勧める際に、患者や家族の不安解消、同意を得るために工夫している点がありましたらお答えください。(複数回答)
1. 患者・家族への傾聴。 2. 多剤服用の不利益、中止後の対応(体調変化のモニタリング等)を伝える。 3. 処方の見直し(例: 慢性的に処方されている薬剤の再評価)によるメリットを伝える。 4. 具体事例を用いて服薬が不要な薬剤について説明する。 5. 服薬を中止した後、問題が生じた場合は速やかに再開できることを伝える 6. 医師による処方変更の説明と患者の同意により、薬剤師が服薬指導、看護師が説明を行う。 7. 再診時に、患者の経過を観察する。 8. 製薬会社のパンフレットなど患者が理解しやすいツールを用いて説明する。 9. 診察時に薬剤師が同席する 10. 多剤服用の見直しについて、国として取り組んでいることを説明する。 11. 1錠ずつ減量・頓服にすることから試みる。 12. その他()

普及啓発(医療従事者への働きかけ)

問28 貴院において、医療従事者向けにポリファーマシー対策を普及啓発するための働きかけを行っていますか。(単一回答)	1. はい 2. いいえ
--	-----------------

〈問28で「1. はい」と回答した場合〉

問29 具体的にどのような働きかけを行っていますか。またその有効性についてお答えください。(複数回答)	①取り組みの実施有無 1. 取り組んでいる 2. 取り組んでいない	(①で「1.」と回答した場合) ②取り組みの有効性 1: とても有効である 2: どちらかといえば有効である 3: どちらかといえば有効ではない 4: 全く有効ではない
1. 院内の勉強会等で周知している		
2. 院内で回覧されるDIニュース等にポリファーマシーの記事を掲載している		
3. 普及啓発のための動画を作成している		
4. 普及啓発のための冊子を作成している		
5. 院内でのポリファーマシー対策の取組方法を共有している		
6. 院内でのポリファーマシー対策の成果を共有している		
7. その他()		

電子処方箋の活用状況

問30 貴院における電子処方箋の取り扱いについてお伺い致します。	
1) 貴院は電子処方箋に対応していますか(単一回答)	1. はい 2. いいえ
<1)で「1はい」とお答えの場合、お答えください。>	1. はい 2. いいえ
2) 電子処方箋をポリファーマシー対策で活用したことがありますか(単一回答)	
<2)で「1はい」とお答えの場合、お答えください。>	
3) 具体的にどのように活用しましたか。(自由記述)	
<2)で「2いいえ」とお答えの場合、お答えください。>	1. はい
4) 電子処方箋をポリファーマシー対策で活用したいと思いませんか。活用したい場合、具体的な活用方法のご想定があればお答えください(自由記述)	(具体的な活用方法をご記入ください。) 2. いいえ

入院患者に対する規程の運用状況

問31 貴院では、 <u>入院患者への</u> ポリファーマシー対策のための取組を規定し運用していますか。(単一回答)	1. はい 2. いいえ
---	-----------------

外来患者に対する規程の運用状況

問32 貴院では、 <u>外来患者への</u> ポリファーマシー対策のための取組を規定し運用していますか。(単一回答)	1. はい 2. いいえ
---	-----------------

外来患者へのポリファーマシー対策の取組内容

問33 <u>外来患者への</u> ポリファーマシー対策のための具体的な取組をお答えください。(複数回答)	
1. 地域ケア会議等で個々の患者のポリファーマシー対策について話し合っている	
2. 担当科医師へのコンサルテーションを行っている	
3. 処方中止するための基準を設けている	
4. ポリファーマシー対策の機能を備えたシステムを運用している	
5. ポリファーマシーの状態にある患者を抽出するためデータ解析を行っている	
6. ポリファーマシー外来を設けている	
7. その他 ()	
8. 特に行っていることはない	

外来患者へのポリファーマシー対策の取組内容

問34 <u>外来患者への</u> ポリファーマシー対策が進まない原因について、回答者様がお考えになるものをお答えください。(複数回答)	
1. 人手不足で外来患者へのポリファーマシー対策の体制が構築できない	
2. ポリファーマシーの対応を行うことが人件費負担の面で難しい	
3. ポリファーマシーの対応を外来診療時間の中で行うことが難しい	
4. 入院患者の対応が優先となり、外来患者の対応までできていない	
5. 患者・家族の理解が得られない	
6. 地域の医療機関等と連携できる体制が整っていない	
7. その他 ()	
8. 外来患者へのポリファーマシー対策が進んでいないとは思わない	

IV. ポリファーマシー対策における院外との連携状況についてお尋ねします

問35 貴院では、地域包括ケアシステムを担う医療・介護関係者等との連携体制がありますか。(単一回答)	1. はい 2. いいえ
--	-----------------

〈問35で「1. はい」と回答した場合〉

問36 医療・介護関係者等との連携方法や連携先のうち、あてはまるものをお答えください。(複数回答)	
1. 地域ケア個別会議などの地域における会合を活用している	
2. 院内の地域連携室を活用している	
3. 既存業務との兼任で入院時の患者のフォローアップを担当する薬剤師を配置し、地域の医療介護職種などとの間でポリファーマシー対策への協力体制を構築している	
4. 地域医師会と連携している	
5. 地域薬剤師会と連携している	
6. 地方自治体と連携している	
7. その他 ()	

地域におけるポリファーマシー対策として行われている具体的な施策

問37 貴院が所在する地域（二次医療圏をご想定ください）において、地域単位や複数の組織で連携したポリファーマシー対策が行われていますか。（単一回答）

1. はい
2. いいえ・分からない

<問37で「1. はい」とお答えの場合>

問38 地域でのポリファーマシー対策として、①具体的にどのような施策が行われているか、②またその有効性をお選びください。（複数回答）

	①取り組みの実施有無 1. 取り組んでいる 2. 取り組んでいない	（①で「1. 取り組んでいる」と回答した場合） ②取り組みの有効性 1：とても有効である 2：どちらかといえば有効である 3：どちらかといえば有効ではない 4：全く有効ではない
1. 地域での複数の施設間でポリファーマシー対策のための連携体制を構築している（例：病院間での連携、病院・薬局間での連携、病院・診療所間での連携など）		
2. 患者に対する処方情報を関係者間で共有するための仕組みがある		
3. ポリファーマシー対策の対象患者を抽出（患者に介入）する取り決めや手順がある		
4. 処方変更に関する検討を行う取り決めや手順がある		
5. 処方変更を患者や家族に説明するための手順やツールがある		
6. ポリファーマシー対策に関して担当者を決めている		
7. 患者ごとのポリファーマシー対策の状況を必要に応じ地域の関係者と共有している		
8. 患者が、地域のお薬相談会等でポリファーマシーについて相談する機会を作っている		
9. その他（ ）		

<問38で「2. 患者に対する処方情報を関係者間で共有するための仕組みがある」と回答した場合は、お答えください。>

問39 患者に対する処方情報の共有について、具体的な取り組み方法についてお答えください。（自由記述）

--

<問38で「3. ポリファーマシー対策の対象患者を抽出（患者に介入）する取り決めや手順がある」と回答した場合は、お答えください。>

問40 ポリファーマシー対策の対象患者を抽出するために①実施している取り組みと、②その取り組みの有効性③具体的な取り組み内容についてお選びください。（複数回答）			
	①取り組みの実施有無 1. 取り組んでいる 2. 取り組んでいない	（①で「1.取り組んでいる」と回答した場合） ②取り組みの有効性 1：とても有効である 2：有効である 3：有効ではない 4：全く有効ではない	（①で「1. 取り組んでいる」と回答した場合） ③具体的な取り組み内容 （詳細にお答えください。）
1. 対象患者を抽出するための取り決め等を定め、共有している			
2. 患者を抽出するための手順書等を地域で共有している			
3. 講演活動等の啓発活動を通じて、ポリファーマシー対策の対象患者とすべき患者像を共有している			
4. 地域ケア会議など、地域で個々の高齢者への対応を検討する会議の場で、ポリファーマシー対策の可否を検討している			
5. その他（ ）			

地域でのポリファーマシー対策を進める上での工夫

<問37で「1. はい」とお答えの場合>

問41 地域でのポリファーマシー対策を進めるために、①地域で講じられている工夫と、②その有効性についてお選びください。（複数回答）		
	①取り組みの実施有無 1. 取り組んでいる 2. 取り組んでいない	（①で「1. 取り組んでいる」と回答した場合） ②取り組みの有効性 1：とても有効である 2：どちらかといえば有効である 3：どちらかといえば有効ではない 4：全く有効ではない
1. 対策を推進する上での中核的な役割を担う主体を巻き込んでいる（中核的な役割を担う主体を具体的にご記入ください。）		
2. 地域ケア会議等、複数の組織が集まる会議でポリファーマシー対策について継続的に情報共有や検討を行うこと		
3. 医療従事者に対して、有識者の講演等を通じてポリファーマシー対策の重要性を啓蒙すること		
4. 地域住民に対して、有識者の講演等を通じてポリファーマシー対策の重要性を啓蒙すること		
5. その他（ ）		
6. 上記に該当するものはない		

問42 ポリファーマシー対策に関して、院外との情報連携にどのような方法を活用していますか。また当該方法はポリファーマシー対策に必要な情報連携を行う上で、どの程度有効とお考えですか。（複数回答）		
	①院外との情報連携での活用有無 1. 該当する（1.の場合は具体例） 2. 該当しない	（①で「1.」と回答した場合） ②活用による有効性 1：とても有効である 2：どちらかといえば有効である 3：どちらかといえば有効ではない 4：全く有効ではない
1. 診療情報提供書		
2. 薬剤情報提供書（外来患者を想定）		
3. 薬剤情報提供書（入院時を想定）		
4. 薬剤情報提供書（退院時を想定）		
5. トレーシングレポート（服薬情報提供書）		
6. 薬剤管理サマリー		
7. お薬手帳		
8. 地域医療情報連携システム		
9. 対面		
10. 電話		
11. FAX		
12. その他（ ）		
13. 院外との情報連携を行っていない		

地域におけるポリファーマシー対策が進まない理由

問43 貴院が所在する地域でポリファーマシー対策が進まない理由として、ご回答者様のお考えに該当するものをお答えください。（複数回答）	
1. 地域単位でのポリファーマシー対策を検討する会議体（会議体等の設置）がないこと	
2. 地域でポリファーマシー対策を中心となって推進する組織がないこと	
3. 自治体が関与していないこと	
4. 地域で中核的な役割を担う病院がポリファーマシー対策に積極的ではないこと	
5. 医療機関が処方変更に積極的ではないこと	
6. 医療機関が処方意図等に関する情報提供に積極的ではないこと	
7. 薬局がポリファーマシー対策に積極的ではないこと	
8. 患者・家族の理解が得られないこと	
9. 人員不足のため、地域におけるポリファーマシー対策に積極的に関与する時間が作れないこと	
10. ポリファーマシーであるかどうかの判断が難しいこと	
11. 患者の病態や服用状況全体をとらえることが困難であること	
12. 地域における各職種（多職種）の連携が十分でないこと	
13. ポリファーマシー対策の対象患者を抽出（患者に介入）する取り決めや手順が整っていないこと	
14. その他（ ）	
15. 地域におけるポリファーマシー対策は進んでおり、上記に該当するものはない	

地域で連携してポリファーマシー対策を行うことによる成果

問44 地域で複数の組織が連携してポリファーマシー対策を実施することにより、実際に生じているメリットについてお答えください。（複数回答）

1. （普及啓発により）ポリファーマシー対策を始める組織が増える
2. （普及啓発により）ポリファーマシー対策に協力する組織が増える
3. ポリファーマシー対策が必要な患者を多様な場で発見できる
4. ポリファーマシー対策に対する患者の理解が得られやすい
5. ポリファーマシー対策を実際に行う患者数が増える
6. 患者の処方情報がより正確に把握できる
7. 患者の処方情報がより速く把握できる
8. 患者の処方情報がより網羅的に把握できる
9. 様々な意見をもとに、適正な処方変更が実現できる
10. 処方変更後、患者の経過観察が行いやすい
11. 処方変更後、処方が元に戻りにくい（処方変更後の処方が維持されやすい）
12. ポリファーマシーが回避・改善される患者が増える
13. その他（ ）
14. 現状、特にポリファーマシー対策に関する取り組みを実施していない

<問37で「1. はい」とお答えの場合>

問45 地域で実施した具体的なポリファーマシー対策に関わる具体的な取組をお答えください。（自由記述）

問46 ポリファーマシー対策を行うにあたり連携先と連携する上で困難を感じるものがあれば、その具体的内容についてお答え下さい。（自由記述）

服薬情報等提供書の活用状況

問47 ポリファーマシー対策として、薬局等から送付される服薬情報等提供書（トレーシングレポート）を活用したことはありますか（単一回答）

1. 頻繁に活用している
2. 活用しているが頻度は低い
3. 活用したことはほぼない
4. 活用していない
5. 受け取ったことがない

<問47で「2. 活用しているが頻度は低い」「3. 活用したことはほぼない」「4. 活用していない」と回答した場合>

問48 ポリファーマシー対策として服薬情報等提供書を活用していない理由をお答えください。（複数回答）

1. 見慣れておらず、見方が分からない。
2. ポリファーマシー対策として有用な情報は記載されていない。
3. 地域におけるごく一部の薬局からのみ提供されるため、病院全体として活用する方針に至っていない。
4. その他（ ）

問49 ポリファーマシー対策を行う上での服薬情報等提供書の問題をお答えください。（複数回答）

1. 服薬情報等提供書の認知度が低いこと
2. 服薬情報等提供書は多職種で見る様式となっていないこと
3. その他（ ）

デジタルの活用について

問50	ポリファーマシー対策のためにデジタル（電子カルテ・電子処方箋・電子お薬手帳 など）を活用した取り組みをされておりましたら、お答えください。
①	取り組みの内容（例：電子カルテを活用して、ポリファーマシー対策の対象患者が自動的にスクリーニングされる仕組みを構築した）（自由記述）
②	導入時に困難だったことと、その対応策があればお答えください。（自由記述）
③	導入後のメリット・効果をお答えください。（自由記述）

回答者の連絡先

問51	ご回答内容に対する詳細なお問い合わせをさせていただく場合がございますため、ご連絡先をご記載いただけますでしょうか。よろしくお願いいたします。【任意回答】	
1)	氏名	
2)	電話番号	
3)	メールアドレス	